

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察技術情報について
令和8年度病害虫発生予察技術情報第 14 号を発売したので送付します。
令和8年度病害虫発生予察技術情報第 14 号

ピーマンのウイルス病 PeVYV(アブラムシ媒介)の防除対策

令和8年5月に、沖縄本島 18 施設(うち平張2)、宮古島8施設および石垣島9施設、計 35 施設でピーマンのウイルス病発生状況調査を行ったところ、沖縄本島ではアブラムシ媒介ウイルスであるトウガラシ葉脈黄化ウイルス pepper vein yellows virus (PeVYV)の発生施設率が 33.3%と最も高い結果でした(表)。ウイルス病に対する有効な治療方法はないため、媒介虫アブラムシの防除対策を徹底しましょう。

1 病原ウイルスの特徴と伝搬方法

- (1) 本種はポレロウイルス属に属する。本種はワタアブラムシ(図1)、モモアカアブラムシ(図2)により媒介される。種子伝染、汁液伝染、土壌伝染は確認されていない。
- (2) 媒介虫が罹病植物を吸汁することで本ウイルスを保毒し、一度ウイルスを獲得すると終生伝搬能力を持つ。経卵伝染はしないとされている。
- (3) 本種に感染すると、葉脈間黄化、葉巻症状を呈し(図3)、果実が小型化したり、奇形果がみられる場合もある。宿主範囲は狭く、主にトウガラシ類(シマトウガラシ等)に感染する。海外においてもトウガラシ類での感染が問題となっている。

2 防除対策上注意すべき事項

ウイルス感染株に対する治療薬はないことから、以下のとおり媒介虫の防除対策を主に行う。

- (1) 施設ではアブラムシ類の侵入防止のため、開口部に0.8mm以下の目合いの細かい防除ネットを展張する。また、紫外線除去フィルムやシルバーマルチなども成虫の飛来を抑制する効果がある。
- (2) アブラムシ類の施設内への侵入を早期に発見するため、黄色粘着トラップを施設の出入り口や開口部近くに設置する。
- (3) アブラムシ類は雑草にも寄生するため、ほ場内および周辺の雑草を除去する。
- (4) シマトウガラシは本ウイルスの宿主となるため、ピーマンのほ場内およびほ場近くには植栽しない。
- (5) 発病株は二次伝染源となるため見つけ次第抜き取り、ポリ袋に入れて密閉し、ほ場外に持ち出し処分する。
- (6) アブラムシ類に対し薬剤防除を行う場合、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。天敵を活用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。
- (7) 施設栽培では栽培終了後直ちに施設を密閉し蒸し込み処理を行い、アブラムシ類を死滅させる。

表 ウイルス病調査結果（令和8年5月調査）

	調査 施設数	調査株数 (本)	PCR 供試株数 ¹⁾	発生施設率（%）			
				PeVYV	WSMoV ²⁾	CaCV ²⁾	ToCV ³⁾
南部	12	5,252	76	25.0	8.3	8.3	25.0
中部	2	899	6	50.0	50.0	0	0
北部	4	954	12	50.0	0	0	0
本島計	18	7,105	94	33.3	11.1	5.6	16.7
宮古島	8	3,296	18	0	37.5	0	0
石垣島	9	2,967	6	0	0	0	0
総計	35	13,368	118	17.6	14.3	2.9	8.6

1) 葉に退緑斑紋症状、輪紋症状もしくは葉脈黄化が見られた葉を一部採取し、PCRに供試した。

2) アザミウマ類媒介ウイルス

3) コナジラミ類媒介ウイルス



図1 ワタアブラムシ(無翅虫)



図2 モモアカアブラムシ(無翅虫)



図3 ピーマンでの葉脈間黄化、葉巻症状

～関連する情報は以下をご覧ください～



アザミウマ類媒介ウイルスの防除対策
(令和8年度 技術情報第7号)



コナジラミ類媒介ウイルスの防除対策
(令和8年度 特殊報第2号)

★詳しくは県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL: (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933

ホームページアドレス : <https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/nogyo/1010700/index.html>

